

調査報告概要表

作成日 2007年7月26日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4675400073
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	さくらのお家
所在地 (電話番号)	鹿児島県始良郡蒲生町上久徳2511-2 (電話)0995-52-1881

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年7月26日

【情報提供票より】平成19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 11年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	12 人
非常勤	3 人
常勤換算	14.7

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	光熱費1日 350 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86.5 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉留クリニック たがた歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは民家に囲まれた緑豊かな閑静な場所にあり、利用者の多くが町内の方という特徴を持っている。開設8年の一般住宅作りのユニットと、開設2年が経つ和風旅館風のユニットからなっており、利用者は裏口を介してそれぞれのユニットを行き来して生活の変化を楽しんでいる。利用者が出来る仕事を見つけ、意欲的にいきいきと活動しており、職員利用者ともに明るく暮らす姿が印象的である。職員は、「自分たちが入りたいホーム」を意識し、ともに生活を楽しむ工夫をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 運営理念の明示については、重要事項説明書への記載をしている。金銭管理の支援に関しては、家族へ金銭出納を報告しながら、利用者の能力に応じて買い物時に少額を所持し支払いをさせるという支援を行っている。市町村との関わりは、必要時に連絡はとっているが、まだ積極的な働きかけをするにいたっておらず、今後も取り組む予定である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の代表者・利用者家族等に対して状況報告をするとともに、行事に関することや様々な意見を出してもらい、ホーム側の検討材料としている。今後は、行政担当者の参加も働きかけていき、より活発な会議を目指している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱等の設置はしておらず、家族来所時に意見要望を聞きだすようにしている。相談内容は記録として残し、職員全員で検討をするようにしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自治会に加入し、利用者と職員が共に地域行事に参加することで地域に馴染んでいる。地域の学校ボランティアの生徒の来訪があったり、近隣の住民が野菜を届けてくれたり、防災訓練を見学に来るなど、地域との連携がとれている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、「住み慣れた町でその人らしく生活していけるように支援していく」、という密着型サービスの果たすべき役割を盛り込んだ独自の理念を職員間で検討し、作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念を目につきやすい場所に掲示し、申し送りやミーティング等の機会を利用して理念の確認・共有に努め、実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、利用者とともに清掃活動や花見・運動会等の地域行事に参加し、交流を図っている。地元の人々から野菜を届けてもらったり、地域の学校ボランティアの受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者だけで行うのではなく職員全員で取り組んでおり、外部評価の意義についても理解している。ただ、前回の外部評価の改善項目について、取り組みが十分とはいえない項目がある。	○	前回の改善項目のうち、「市町村との関わり」についてはまだ取り組みが十分でないため、今後再検討し、積極的に取り組んでいって欲しい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は昨年より開催しているが、不定期であり、5～6ヶ月に一度の開催である。民生委員や利用者家族の参加はあるものの、行政からの出席は今のところない。	○	運営推進会議は、報告や情報交換にとどまらず、話し合いを通じて会議メンバーから率直な意見をもらい、サービスの向上に活かすことが重要であるため、2ヶ月に一度は開催し、また幅広い立場の方々の参加が望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談や質問事項については市町村担当者に聞いているが、特にホームのアピール等はしていない。	○	ホームの行事案内を配布し行事に招待したり、運営推進会議の参加を依頼するなど、ホームからの積極的な関係づくりを検討されたい。また、福祉課のみならず、関係機関の担当者とも連携を図り、共に課題解決に向けて取り組んでいってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度は、利用者のホームでの暮らしぶりを写真を添えて報告しており、その際に職員の異動に関する報告と金銭出納帳のコピーの送付もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の際に家族から意見を聞く時間を設けている。意見箱等はないが、家族が来所時に不満や要望がないか声をかけるようにしている。	○	職員は、家族等が率直な意見・不満を言いにくい立場であることを理解し、職員はもちろん部外者に安心して話せる機会を積極的につくることが大切である。家族等の意見・要望を汲み取るシステムの構築を具体的に検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの管理者や職員による支援の重要性を十分認識しており、やむを得ない場合を除いて、極力職員の異動がないように配慮している。異動がある際は、職員全員で努力して利用者のダメージとならないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は一ヶ月間行い、法人内の各部署を体験するようにしている。外部での研修は交代で参加し、月に一度のホーム内勉強会で伝達講習を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入しており、そこで情報交換をしたり、近隣のホームと親睦会を行ったりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前より、本人・家族にホームの見学をしてもらい、馴染みの関係づくりに努め、安心して利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理をはじめ日常生活場面の中で利用者とともに行動し、お互いに支えあう関係を築いている。年長者である利用者から様々なことを教えてもらう場面がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の希望や意向を引き出すように努めている。また、利用者はそれぞれに相談しやすい職員がいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人や家族の意見をもとに職員と話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の見直しをしており、必要に応じてカンファレンスで話し合いをもっている。また、モニタリング表を作成して記入するなどの工夫も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対し、必要時の通院支援や墓参り同行などの柔軟な対応はもとより、家族の宿泊時は実費での食事提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。医療連携による24時間連絡体制や看護師の訪問など、医療面での対応もスムーズである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携の中で「看取りに関する指針」(マニュアル)の作成があり、各ユニットで利用者をホームで看取っている。方針の共有を図ってはいるものの、重度化した場合や終末期のケアについては、職員の対応や不安の程度に格差がある。	○	重度化に伴う本人や家族の不安も大きくなるため、全職員が質の高いケアを提供するために終末期に関する職員教育を検討されたい。一部の職員で対応するのではなく、ホームとしての取り組みとなることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大事にし、言葉かけや対応に注意をはらっている。個人の記録物の保管も適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大事にし、日々の暮らしがその人らしいものとなるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、能力に応じて食事の準備を積極的に行っており、時にはテーブル上で調理をし、取り分けるなど変化を楽しんでいる。利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しい会話の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴日などは設定せずに、利用者の希望に応じて入浴支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者がそれぞれに、炊事や買い物・洗濯・掃除などの日常生活の中で役割や楽しみをもっている。職員は、役割分担等でトラブルにならないよう公平性を配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な公園散歩等は適宜支援をしており、近辺のスーパーへの買い物にも共に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っており、玄関に鈴をつけるなどの工夫をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防火訓練を行い、夜間を想定した避難訓練も実施している。訓練時は、近所の方々も見学にきている。。	○	ホーム独自の訓練は実施しているが、地域合同の防災訓練には参加していないため、今後は地域の訓練にも参加されたい。また、引きつづき地域・近隣へは協力を要請していくことが大切である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設クリニックの栄養士に、糖尿病利用者の栄養相談をするなど、疾病に関しては主治医と連携を図っている。	○	利用者一人ひとりが、暮らし全体を通して必要な栄養がとれるよう、管理者をはじめ職員がおおよその摂取カロリーを把握することが大切である。栄養士の活用や個別記録の記載などで、食生活の支援を工夫していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾等があり、玄関から居間にいたるまで家庭的でくつろげる空間となっている。各ユニットで造りが異なるため、利用者はそれぞれのユニットを行き来して雰囲気の違いを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に装飾しており、家具など馴染みの物を持ち込み、それぞれの大切な物品に囲まれて居心地良く暮らしている。		